

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和5(2023)年 5月7日(日)
タイトル	田んぼの学校 ～那須苗取り田植唄保存会 三島地区～
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 専務理事 星野恵美子

令和5年5月7日(日)、栃木県那須塩原市三島地区において活動する、那須苗取り田植唄保存会による田んぼの学校が開催されました。

この日は、あいにくの雨と風により肌寒い中での活動となりましたが、同保存会員や地元の小学生を中心に約40名が参加して行われました。

はじめに同保存会の方と星野専務理事から、田んぼの営みや水の大切さについて、教科書で学ぶだけでなく、体験を通じて実際に肌で感じて欲しいとのお話をいただきました。



肌寒い天候でありながらも、子供たちは元気いっぱい裸足で田んぼの中へ順番に入っていました。同保存会の方々から指導を受けて、一列に間隔を空けて並び、苗の束から苗を2、3本抜き取り、田んぼに移植することは簡単のようで難しく、小さい子は束が多くなってしまったり、苗が水に浮いてしまったりと、楽しみながらも苦戦していました。そうした中、保存会の方々が奏でる笛の音色と陽気な田植唄の歌声が響き、昔の田植えの情景がふと思い浮かぶようでした。昔は、この田植唄を歌うことができると、呼びが多くかかり賃金も多くもらえたそうです。

約1時間かけて水田の一部約10アールにコシヒカリの苗を植えました。



こうした体験は先人たちの米作りの知恵や苦勞を知り、子どもたちが水田をはじめとする水環境に興味を持つことに繋がる貴重な機会でした。伝統的な田植唄も、子どもたちからまた次の子どもたちへ継承して行って欲しいと思います。